

一人一人の発達を促すための援助の工夫  
～発達をとらえるための実態把握シートの作成と活用を通して～



幼児教育班 江黒 輝子 (幼稚園教諭)

主題設定の理由

教師の実態  
教師によって  
かかわりの違  
いがある

幼児の実態  
発達の個人  
差が大きい

実態把握シートの作成

実態把握シートの活用

<手だて1>

項目ごとに幼児  
の観察をする

一人一人の発達の姿をと  
らえることができる

<手だて2>

教師がとらえた幼児の発達の  
姿を持ち寄り比較検討する

共通理解しながら、発達の課  
題を明確にすることができる

<手だて3>

発達の課題についてどの教師  
も同じかかわりをする

幼児の発達を促すこ  
とができる

一人一人の発達を促す

実践の概要

手だて1 実態把握シートの項目ごとに幼児を観察しその姿を多面的にとらえる

幼児の実態把握シート (部分)

生活習慣	
No.	項目
1	トイレでの排泄習慣が身に付いている
2	衣服の着脱をする
3	靴を履く
4	ボタンの掛け外しをする
5	手洗い、うがいをする
6	鼻をかむ
7	食事の時「いただきます」まで待っている
8	箸やスプーンを使って食べる
9	好き嫌いをなく食べる

動作	
No.	項目
1	走る
2	動作がスムーズである
3	両足を揃えて跳ぶ
4	片足でケンケンする
5	転ばない
6	体操やダンスなどまねをしながら動作をする

『特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関するチェックリスト』(群馬県教育委員会特別支援教育室を基にして、4歳児の幼児の実態を把握するための項目(生活習慣、動作、話す・聞く、人のかかわり、行動)を考え、実態把握シートを作成した。

<A児の場合>  
4月「生活習慣」や「動作」「人のかかわり」や「話す・聞く」「行動」のそれぞれの項目に課題を把握できた。運動会後の10月では教師や友達と一緒に運動会に向けた練習に取り組む経験を積み重ねたことで「動作6」に向上が見られた。

<A児の実態把握シート> (部分)

No.	項目	月				備考
		4	7	8	10	
2	衣服の着脱をする	○	◎	◎	◎	
4	ボタンの掛け外しをする		○	◎	◎	
6	体操やダンスなどまねをしながら動作をする			○	◎	運動会当日は踊らない
2	話しかけられて相手に注意を向ける				○	
6	一人遊びではなく、友達と遊ぶ		○	○	○	
1	話をするとき目が合う			○	◎	
10	特定のものにこだわりや執着がなく行動できる					一番にこだわる
11	自分の思う通りにならなくても我慢する					泣く、怒る
12	いけないことをして注意されると分かり行動する					たたく
13	順番を待つ				○	
14	きまりや約束事を守る			○	○	

◎あてはまる ○少しあてはまる  
○あまりあてはまらない 無印 あてはまらない

手だて2 教師がとらえた幼児の発達の姿を持ち寄り比較検討する

A児の実態把握シートを基にした協議(6月)

体操やダンスなどまねしながら踊らないですね

友達と遊ぶことより一人で遊ぶことが好きみたいです



体操やゆうぎをする時は、友達を追いかけてますね

友達への関心がないのではなく、かかわり方がわからないだけではないでしょうか

<A児の課題>  
友達とかかわりがもてるようにする。

<考察>

実態把握シートをもとに、それぞれの教師が幼児の姿を観察した結果を比較検討したり、幼児にかかわったりした場面を情報交換したりすることで、課題が明らかになった。

手だて3 発達の課題についてどの教師も同じかかわりをする

<A児に対する教師の同じかかわり>  
友達と同じことをする楽しさを味わえるように仲介する。

遊戯の場面での担任のかかわり

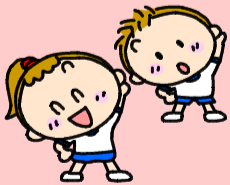
給食の場面での他の教師のかかわり

(教師の踊る姿がよく見えて踊り方が分かるように)ここで踊ってみてね

(遊戯のポイントとなる)「へい!」の所だけやってみようよ

A児が友達とちょうど一緒にシューマイを口に入れてるところを見て、友達を意識できるように声を掛ける。

周囲を見回して「先生、Cちゃんも、Dちゃんも『友達シューマイだね』と自分から話していた。



Aくんも、「へい!」できたね。かっこいい!(やろうとする姿やできた姿を大いに認める)

Aくん、友達と一緒にシューマイを食べているね

隣のBちゃんも食べているね。同じシューマイだから『友達しゅうまいだね』

<考察>

遊戯や給食の場面でのどの教師もA児に同じかかわりをしたことにより、友達に興味をもったり、かかわろうとしたりすることができ、A児の発達を促すことに効果があったと考える。

音楽に合わせて友達と一緒に「へい!」と言う楽しさを味わうことができた。その後、教師が個別に声を掛けなくても友達と踊るようになった。

友達と同じ場面を共有すると「友達だね」と言い、友達に興味をもったり、友達が遊んでいる場面にかかわろうとすることができた。

まとめ

<成果>

- 実態把握シートを活用することで、幼児の行動の意味をとらえようとする教師の意識が高まり、幼児の姿を多面的にとらえられ、発達の課題を把握することができた。
- 実態把握シートを基にして幼児の実態をより客観的に把握し、教師間で幼児の発達の課題を明確にして幼児に同じかかわりをするのが、一人一人の幼児の発達を促すことに有効であることが分かった。

<課題>

- より多面的に幼児の姿をとらえられるように、実態把握シートの内容や実態把握の時期について改善を重ねるとともに、5歳児を対象とした実態把握シートも考えていきたい。